

④富山県庁と富山城址

明治4年3月に^{はいはん ちけん}廃藩置県が行われ、新たに富山県が設置されました。県庁には旧本丸御殿が充てられました。その後、新川県となり、一時魚津に移転した時期もありますが、それを除けば県庁は城址に置かれていました。しかし、同9年に石川県（県庁は金沢）に統合されたため、城址にあった県庁は廃止されてしまいました。同時に県庁跡には石川県の富山支庁が置かれていましたが、同11年には廃止されました。



富山県庁

旧本丸御殿。天保4年(1833)に新築されました。廃城の際、藩主の居住空間である奥向きは取り壊され、表向き部分のみが県庁として使用されました。

これを受けて、富山の有志が城址保存のため、明治15年に公園として整備することになりました。人々は花や木を植え、景観を整えていきました。富山城の解体が進む中で、御殿が残る旧本丸部分の遺構だけでも保存したいという思いが湧きあがってきたのでしょう。

富山県と県庁の動き

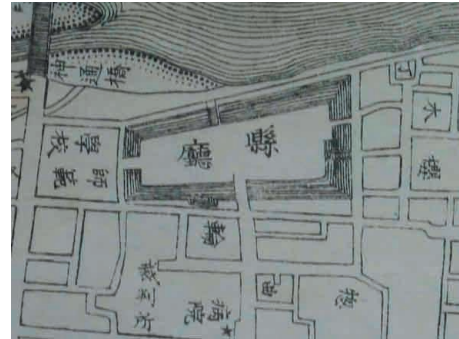
明治4年7月	富山県設置 県庁は旧本丸御殿を充てる
明治4年11月	富山県が廃止され新川県設置 県庁を魚津に設置
明治6年7月	県庁を富山城址（旧本丸御殿）に移す
明治9年4月	新川県が廃止され、石川県に統合 県庁は金沢
明治16年5月	石川県から富山県独立 県庁を城址に設置

しかし、ようやく公園としての形が整った明治16年、石川県から富山県が独立し、また城址に県庁が置かれることになりました。その結果、公園は廃止され県庁敷地となったのです。同32年に初代県庁舎（旧本丸御殿）は焼失してしまいますが、その後も県庁敷地として利用されています。



富山県庁

明治 33 年に城址に再建された県庁舎。昭和5年に焼失しました。



明治34年の城址

周囲を堀で囲まれた県庁敷地

こんなこともありました その4

明治32年、富山城址で関西府県連合共進会を開催することになり、県庁が山王町に、日枝神社が城址に移されました。共進会終了後は公園として整備する予定でした。ところが、同じ年の8月、開催直前の大火により県庁も日枝神社も、そして旧本丸御殿も焼失してしまいました。その結果、共進会場は堀川村（現在の富山高校敷地）に移され、県庁と日枝神社も元の場所に戻されました。城址は県庁敷地に戻ったのです。

なお、旧西之丸には明治32年まで監獄署（現在の刑務所）が置かれていました。同16年、西側の堀に土橋が架けられたのは、監獄署の出口とするためです。また、本丸と西之丸の間の堀は、同25年までには埋め立てられたようです。その後、旧西之丸は旧本丸と合わせて管理され、監獄署移転後には県会議事堂が建てられました。



旧西之丸の監獄署

廃藩置県の際、富山藩の牢獄（後の監獄署）が旧西之丸に移されました。



富山県会議事堂

明治42年に皇太子（後の大正天皇）行啓記念事業として建設されました。

戦前の県庁は、用事のない人が気軽に近付けるところではありませんでした。周囲が堀で囲まれていることは、それを象徴しているようにも見えます。

こうして、昭和初期まで県庁敷地として管理されたおかげで、周囲が埋め立てられることもなく、旧本丸と西之丸部分は、富山城の面影を残す唯一の空間として残されることになったのです。

＊

＊

＊

明治という新しい時代の到来により、旧体制に関わるものは、無用のものとして破壊されていく流れにありました。「城郭」もその1つです。これまで見てきたように、富山城もその多くが解体―破壊―され、遺構は失われていきました。一方で、解体は大きな“空き地”の出現を意味します。ここに新たな建物や道路が造られ、近代的な街づくりが次々と進められていったのです。富山城址は、新時代の到来を最もよく感じる場所となりました。

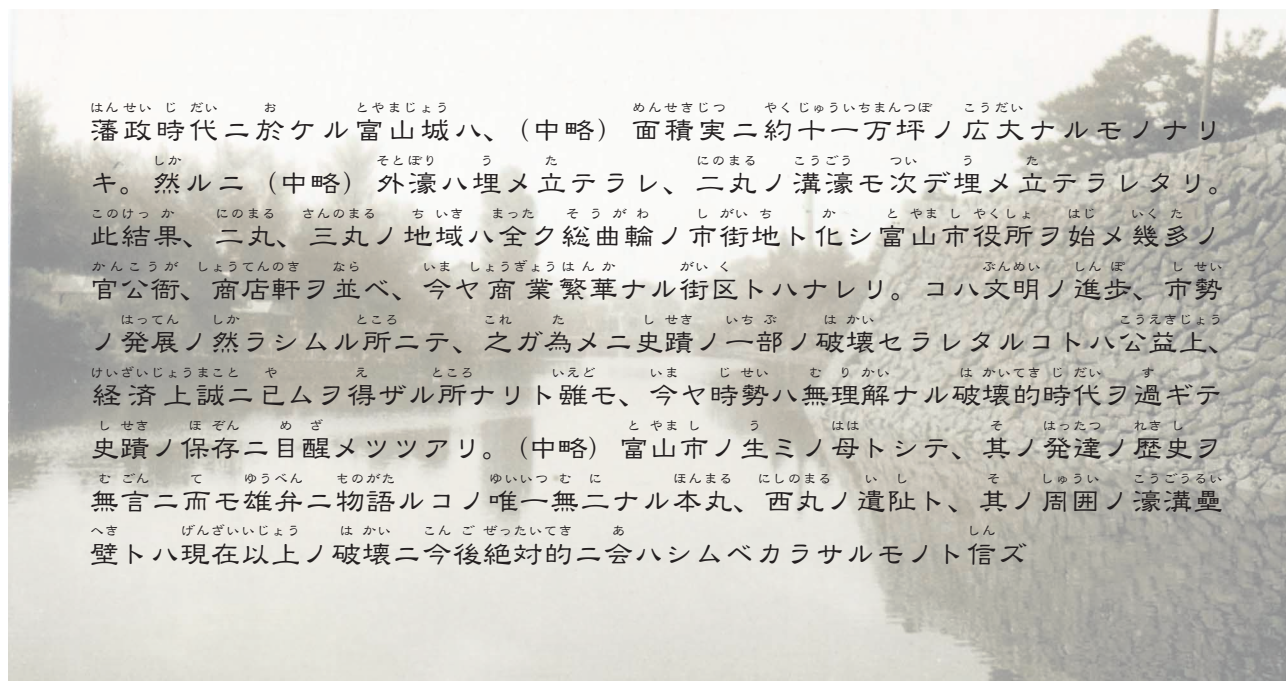


大正時代中期、城址付近の航空写真です。城址の東側上空から撮影しています。県庁敷地は堀に囲まれ、そのほかの地域には多くの家並みが見えます。中央が県庁、右側が神通川です。(P2の地図参照)

それでは次に、唯一残された旧本丸・西之丸のその後を見てみることにしましょう。解体が新しい街づくりにつながっていた時代から、残された遺構を史蹟として保存しようとする動きが出てきます。

(2) 昭和初期のお話

大正13年、富山市は都市計画施行都市の指定を受けました。これに合わせて設置された都市計画委員会において、城址を貫いて、メインストリートであった大手通りと富山駅を直線道路でつなぐという案が飛び出しました。この案に対して、大正15年に富山県史蹟名勝天然記念物調査会から「富山城址保存ニ関スル建議書」が出されています。その中で調査会は、次のように述べています。



「富山城の遺構の一部が、市の発展のために破壊されたことは止むを得ないことである。しかし、これからは破壊の時代ではなく、史蹟保存の時代である。富山市発展の歴史を物語る唯一の遺構として、現在以上の破壊をすべきではないと信じる。」と述べているのです。このほか、「都市計画においては、経済的・物理的・社会的方面だけではなく、精神的文明や史蹟の保存に関しても注意しなければならない。」とも言っています。城址保存に対する思いが、言葉を変えつつ何度も繰り返されているのです。



富山駅と大手通りを直線で結び、城址の中心を横切ります。

このように、城址は保存しなければならないという意見が多かったのか、結局新道路の建設案は採用されませんでした。もし、これが採用され実現していたなら、堀は埋め立てられ、石垣は撤去され、現在の城址公園はなかったことでしょう。

昭和5年、城址にあった県庁が火事のため全焼しました。再建するにあたっては、元の場所
にという意見もありましたが、最終的には城址の北（現在地）に新築移転することに決定しま
した。城址はここに明治以来の県庁敷地としての役目を終えたのです。

さて、都市計画による破壊の危機を脱し、そして県庁敷地としての役目も終えた城址は、風
致地区として、永く後世まで保存されることに決定しました。昭和8年に都市計画風致地区に
指定され、現在に至ります。風致地区指定の理由は次の通りです。

とやまじょうし いったい ゆうすい し ぜん けいしゅ と おお と やま し じん おうじゃく し の
富山城址一帯ハ、幽邃ニシテ自然ノ景趣ニ富ムモノ多ク、カツ富山市民ガ往昔ヲ偲
ゆい いつ こ せき しか し はってん と も な ゆいしよ い せき は めつ
ブ唯一ノ古跡タリ。然ルニ、市ノ発展ニ伴イ、ヤヤモスレハ由緒アル遺蹟ハ壊滅セ
ラルル恐レアルヲモッテ、（中略）風致地区ニ指定シ、景趣ヲ維持保育セムトス

富山城址一帯は、物静かで奥深く、趣きがある。さらに、富山市民がいにしえを偲ぶことが
できる唯一の遺跡である。しかし、市の発展に伴って、由緒ある遺跡は破壊される恐れがある
ため、風致地区に指定して保存する。

なお、富山城址は昭和14年に都市計画公園に指定され、その翌年整備の上、「富山公園」と
して開園しました。しかし同20年8月、空襲により富山市街は焦土と化し、城址にあった木々
や建物も全て焼失してしまいました。

こんなこともありました その5

昭和11年、神通川^{はいせん ち}廃川地（旧神通川の埋
立地）を会場として、日満産業大博覧会^{にちまん}が開
催されました。その際、会場の一部として城
址に子供用の遊具を揃えた「子供の国」が建
設されました。以前から、風致地区に指定さ
れた城址を公園化するための調査が進められ
ていました。そのため、この機会に児童用の
運動器具などの設備を整えることができ、博
覧会終了後も公園の施設として残すことがで
きたのです。



堀に浮かぶボート

現在の城址公園自由広場の南から、全日空ホテルの方
向を見たものです。会期中、堀には児童用ボートが浮
かべられました。

(3) 戦後のお話

空襲を経て、城址は変化を余儀なくされました。空襲後の瓦礫を埋めたり、戦災復興都市計画で新道路が建設されたことなどから、周囲に残っていた堀の埋め立てが進んだのです。

まず、空襲で焼けた瓦の処理のため北側の堀が埋め立てられ、次に道路（現在の城址大通り）を新設するため東側の堀が埋め立てられ、また城址の南東角も削られてしまいました。西側も建物が建てられるたびに埋め立てられていきました。そして最後に昭和37年、旧消防署新築のために、西南隅の堀が埋め立てられたことにより、堀は現在のような形になりました。城址公園の外周と内側に大きな高低差が見られるのは、そこが元は堀であった名残です。



昭和30年代の城址公園

木もあまり生い茂っておらず、消防署も建てられていません。



城址公園内の外周と内側の段差

手前が堀だった部分で、終戦までは水が湛えられていました。

昭和46年には、城址の地下に駐車場が建設されました。急激な車社会の発達の中で路上駐車が多くなり、市街地において問題となっていたためです。北陸初の地下駐車場でした。「車社会」という新しい社会の到来による、違法駐車問題解決のため必要不可欠のものでした。しかし一方で、城址の地下に眠る貴重な富山城遺構の大規模な破壊を招きました。



開業当時の駐車場入口

『富山戦災復興誌』より

なお、城址は昭和27年に新たに都市計画公園「富山城址公園」として開園しました。そして、同29年には戦災復興事業の完了を機に、城址一帯を会場として富山産業大博覧会が開催されました。その際、記念の建築物として建設されたのが三重四階の天守閣「富山城」です。会期中は「美の殿堂」として各種展覧会が開催され、終了後に郷土博物館として開館しました。

現在、城址公園は市街地の貴重なオアシスであり、天守閣は市街地のランドマークとなっています。



昭和30年頃の城址公園

松川左岸から見た風景。児童公園越しに「富山城」が見えます。



現在の城址公園

市役所展望塔から見た城址公園。ビルが建ち並ぶ市街地にあって、貴重な緑地であることがわかります。

＊

＊

＊

さて、江戸時代の富山城と私たちが暮らす街をつなぐ糸は見えましたか。約120年前まで存在した富山城は廃城後、長い時間をかけて現在の城址公園と高いビルが建ち並ぶ市街地に変貌を遂げました。城址公園の範囲は、富山城のほんの一部にすぎないのです。ここに至るには、多くの人々の様々な思いや考えがありました。今後は、「富山市ノ生ミノ母」(P13 参照)である富山城址を、大切に未来へと伝えていかなければならないでしょう。

城址公園で見られる富山城の遺構

城址公園を散策すると、富山城の遺構を見ることができます。

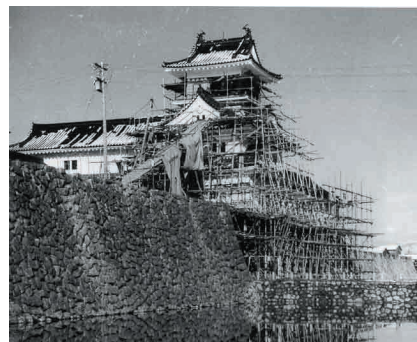
郷土博物館が建っている辺りの石垣を見てみましょう。ここは、本丸の正面に当たる場所で、^{くろがねもん}枡形門形式の鉄門があった所です。^{かぎ}鉤の手状に折れ曲がっているのはその名残です。そして、この石垣には普通の石よりも大きな石が6個積まれています。これは^{かがみいし}鏡石といって、お城を立派に見せるために積まれたものです。また、石の中にはいろいろな刻印が刻まれているものもあります。現在のところ、公園全部で約90種、150個以上がみつかっています。このほかにも、堀や土橋も残っていますので、実際に公園を歩いて確かめてみてください。



堀・土橋・石垣

* 天守閣の建設 *

昭和20年の空襲は、富山市街地に壊滅的被害をもたらしました。そして、昭和29年人々がようやく立ち直ってきた頃に建設されたのが「富山城」です。彦根城や犬山城など全国の現存天守を参考に、新たに慶長様式の天守閣がデザインされました。その姿は、焦土の記憶が生々しい市民にとって、さぞ美しく、輝かしい未来の象徴として映ったことでしょう。



建設中の「富山城」



行列ができた「富山城」

博覧会終了後、「富山城」は富山市立郷土博物館として開館しました。富山市で最初の博物館です。第1回の展覧会は「富山市美術展」(市展)でした。以降、郷土の歴史や文化を紹介する博物館として、数多くの展覧会が開催され、多くの市民が観覧に訪れました。

博覧会の会期中は「美の殿堂」と名付けられ、各種展覧会が開催されました。さらに、最上階からは富山市街のみならず立山連峰まで一望できたため、多くの人で賑わいました。「富山城」は博覧会の、そして戦災復興のシンボルだったのです。



国宝法隆寺展(昭和38年)

『富山市史』より



第13回チンドンコンクール
(昭和42年)

郷土博物館(富山城)は、建設以来富山市のシンボルとして市民に親しまれてきました。チンドンコンクールや左義長さぎちょうの背景には、いつも「富山城」が写っています。市内の多くの小学生が写生大会で「富山城」を描きました。「富山城」は富山市の景観に、市民の意識の中に溶け込んでいます。

建設から半世紀。平成15年からは、約2年をかけて耐震改修工事を行うことになりました。ランドマークの「富山城」には覆いがかけられ、博物館はしばらく休館です。

そんな最中の平成16年7月、建設からちょうど50年目を迎えたこの年、市民に親しまれ続けてきた郷土博物館(富山城)は、富山市のシンボルとして、戦災復興期を代表する建築物として国の登録有形文化財に登録されました。

富山城の専門博物館

今回は明治時代以降の城址の変遷だけを紹介しましたが、博物館の展示室では、戦国時代に築城されてから現在に至る城址の変遷までを紹介しています。「富山城はどうしてここに築かれたのだろう」、「富山城にはどんな建物が建っていたのかな」、「全国のお城と比べてみて富山城って大きかったのかな、小さかったのかな」、新しい博物館で確かめてみてください。



また、私たちが目にすることのできる遺構は、現在では石垣と一部の堀などわずかですが、近年行われている城址公園の発掘調査によって、地下に中世や近世の富山城の遺構が残されていることが確認されています。新しい博物館では、こうした新事実も紹介していきますのでご期待ください。



登録文化財プレート

博物館のどこに付けてあるのか、探してみてくださいね。

身近にありながら、意外と知らない富山城の歴史。博物館で、歴史体験「富山城ものがたり」にふれてください。そして、中心市街地となった富山城の跡を歩いてみてください。きっと街並みが違って見えてきますよ。

裏表紙の写真

鉄門跡の石垣に見られる鏡石。実際に横に並んで、大きさを実感してみよう！

平成17年 9 月 1 日 初版
平成18年 9 月 1 日 改訂

富山市郷土博物館

〒 930-0081 富山市本丸1- 62

TEL076-432-7911、FAX076-432-8060

<http://www.city.toyama.toyama.jp/shisetu/bunka/html/index.html>

当館ホームページより、この小冊子のデータをダウンロードすることができます。

文責：浦畑奈津子

